

VOLUME.

1

【漫画】小宮利公

【原作】笑うヤカン

キャラクター原案 © 新堂アラタ

ガールキラーコミックス

魔王の始め方

THE COMIC

試し読み版

CONTENTS

valkyrie comic series - how to book on the devil the comic
comicwork by komiya toshimasa - story work by warau yakan
presented by kill time communication

1

✦ Step.1	5
✦ Step.2	55
✦ Step.3	81
✦ Step.4	111
✦ Step.5	139
✦ Step.6	165

この日

自分を

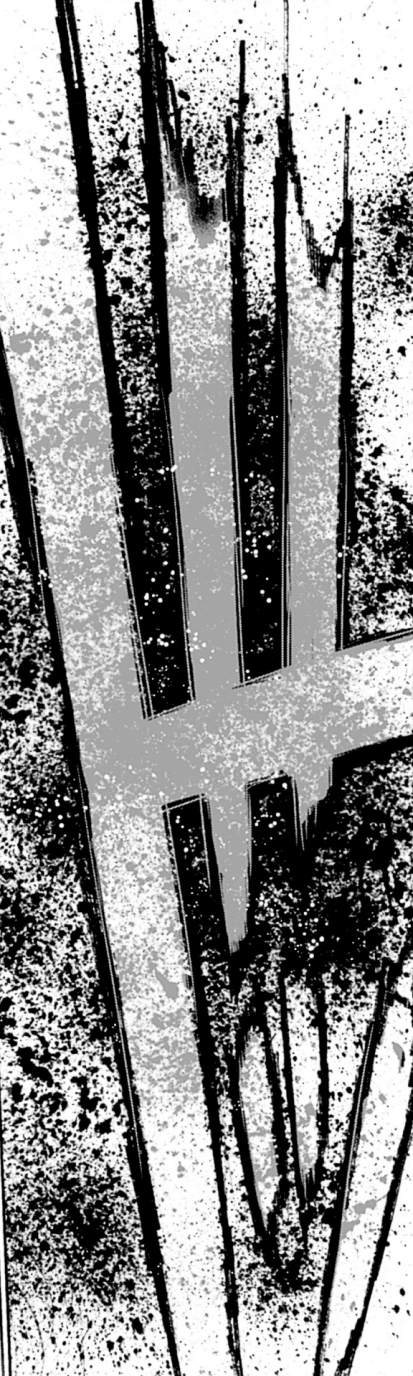
裏切った

ものを

絶対に

許さない





Step. 1





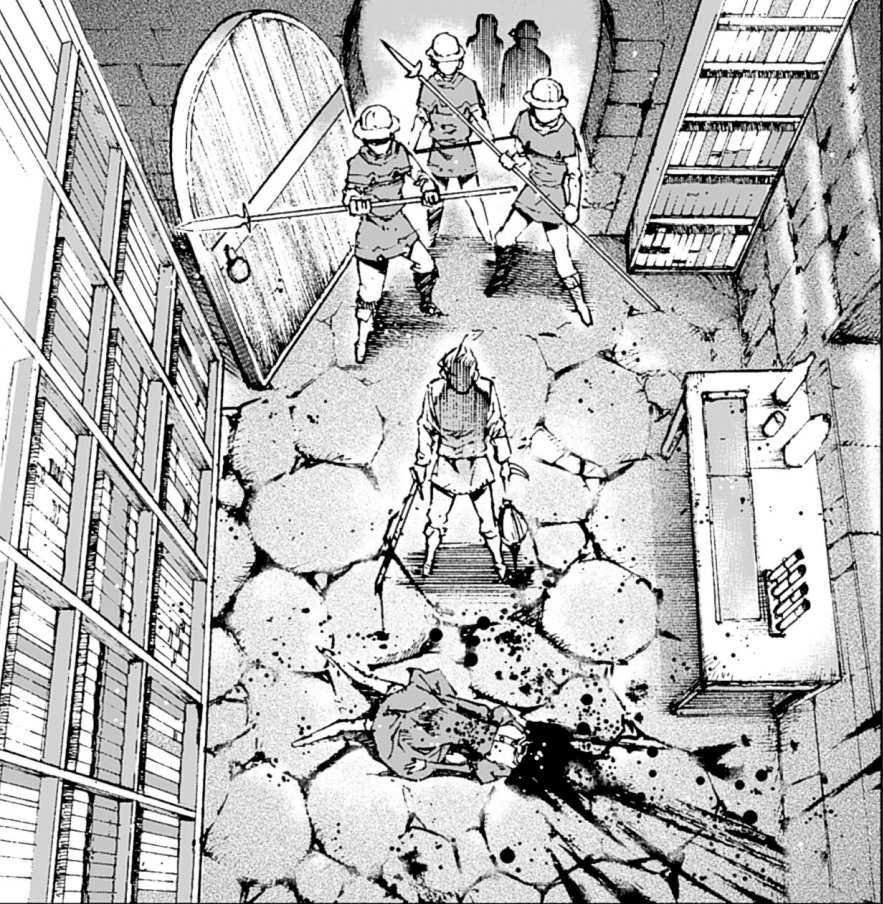
動
く
な



手
を
あ
…



!?



数十年後





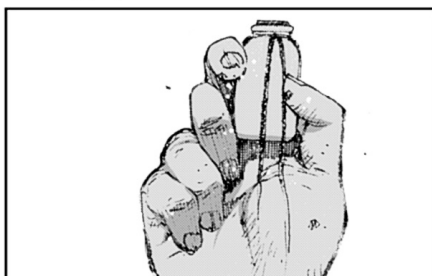


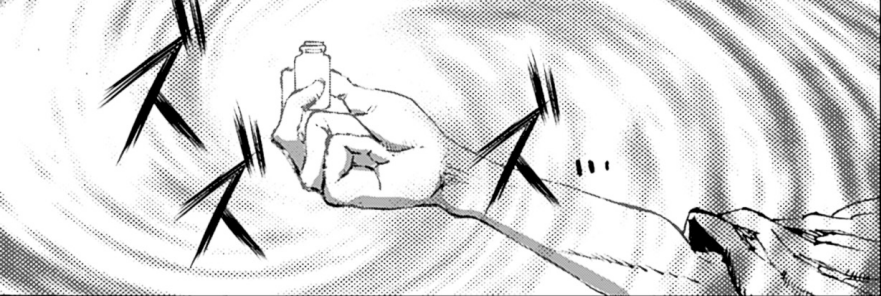
フハッハハッハハ

やった!

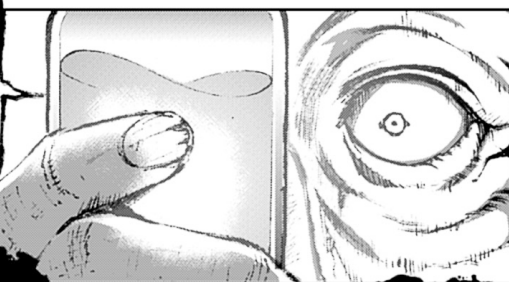
ハッ

この味わいさえ感じる
ほどの芳醇な魔力!
遂に見つけ
出したぞおおお!





素晴らしい：
これだけあれば……



おお：
視認さえできる
高濃度の
魔力の結晶……

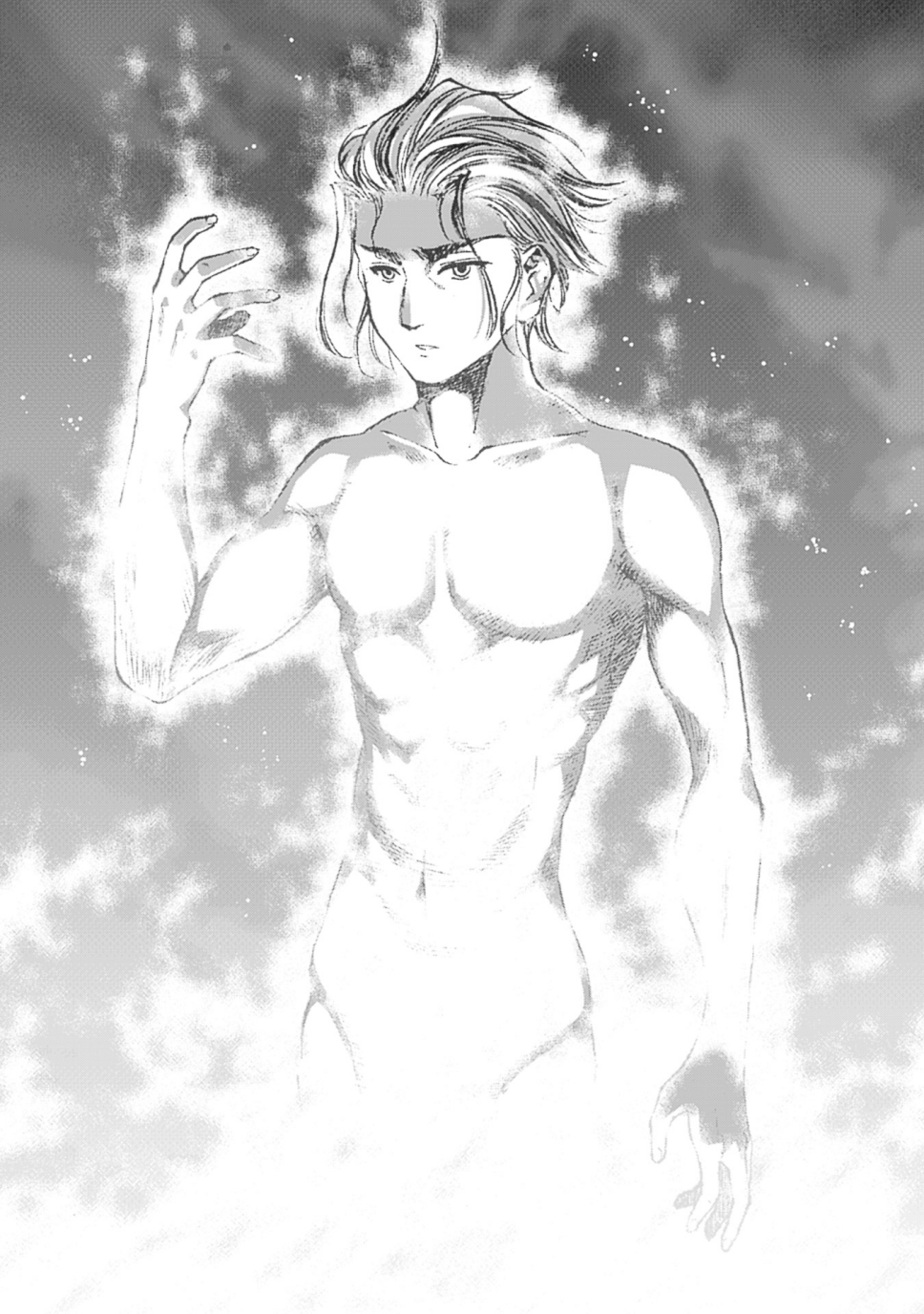
素晴らしい
これだけあれば……



素晴らしい
これだけあれば……









力が溢れてくる…

これが若い肉体というものか



おっと

もう一杯になるか



あとはこの
殺風景な
空間だ



ふむ

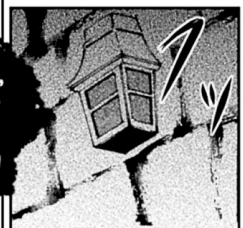
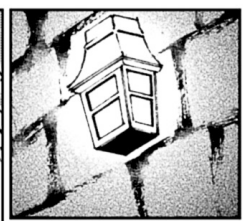
これで当分は
持つだろう



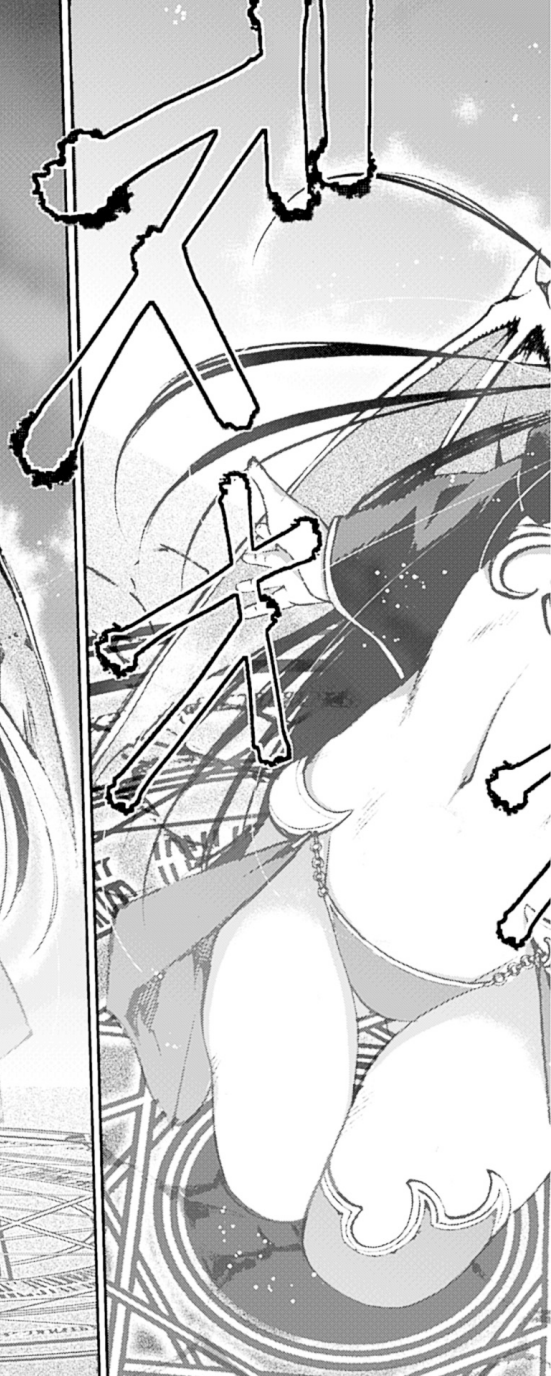
これで
よし

っと…









…わたしを
呼んだのは

あなた？

…そうだ

そう…
じゃあ呼んでくれた
御礼にとびきりの
夢を見せてあげる

この魔法陣を
消して
もらえる？

このままじゃ
その素敵な唇に
キスする事も
できないわ

その魔法陣を消せば
お前はすぐさま
俺の魂を奪い
魔界に戻る気だろっ

それは
できないな

消すのは
契約を
結んでからだ



で？

わたしは何を
すればいいわけ？

これだけ魔力を用意
できる魔術師が
そんな手に引っ掛かる
わけないっての



あーあ
つまんないの

ちょっとした
冗談じゃない



愚かな男達から
精を吸い上げる？

それとも
あなたの敵に
無限の悪夢を
見せてやる？

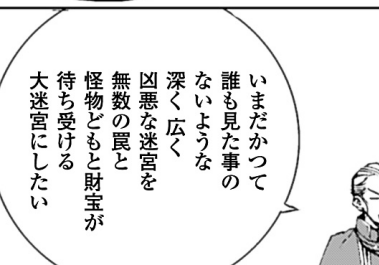


お前には
ダンジョンを
作ってもらいたい

うむ



あなた自身に
最高の夜を見せて
あげるのもいいけど



いまだかつて
誰も見た事の
ないような
深く広く
凶悪な迷宮を
無数の罫と
怪物どもと財宝が
待ち受ける
大迷宮にしたい



はい？

はああ？

あのね
わたし淫魔
なんですけど

そんな肉体労働
ゴレムか
ゴブリンにでも
やらせなさいよ！

ふー

慌てるな

無論

穴を掘る作業は
そういった
者どもに任せる

だがそれ以外の
膨大な作業を
手伝う者が要るのだ

ダンジョンの
通路や部屋は
どのように配する？

異と怪物どもは？
守衛となる魔物も
生き物なら餌がいる
その調達は
如何にする？

我が迷宮が大きくなれば
それを脅かそうとする
不屈き者も出るだろう
その様な輩への対処は？

考えるべき事
すべき事は無数にある
それを…
貴様に手伝って
もらいたい

…
それは
分かったけど何で
わたしなわけ？

理由は
三つだ

まず第一に
俺は人間を信じておらん
人は必ず裏切る
妖魔や亜人の類も
それは同じだ

だがお前たち悪魔は
契約を破る事は
絶対にできない
だから人間ではなく
悪魔を選んだ

第二に通常悪魔は
高位になるほど
高い力と知恵を持つが
その分契約や存在の
維持に大量の魔力が
必要だ

お前達悪魔は
人間の欲望と精を
吸い取ることを生業とする
さほど強くはない代わりに
必要魔力に比して賢く
人間の感情の機微にも聡い
だから淫魔を選んだ

…第三に…



ふうん…

なるほどね

どうせ傍に置くなら
見てくれだけでも
美しく若い女が良い

だから
お前を選んだ



いいわ
その仕事
手伝ってあげる



あら

契約内容まで
準備してあるの
用意がいいわね

ではこの契約に
名をもって
同意してくれ

ふうん

俺を陥れるのを
防ぐための
条文だ

一体何条
あるのよ
コレ!

……って
細か!

極端にお前の
不利になる
条文はないから
安心しろ

そんな事
しなくても
裏切ったり
しないわよ

あー
字細かくて
読みづらい

じゃ
契約するわよ

汝サキユバスよ
この契約に従い
名をもつて
我が力となるか?

我が名
リルシャーナにかけて誓う
契約に従いあなたに
力を貸しましょう

ならば我が名
アイン・ソフ・オウルにおいて
この契約を守る事を誓おう



はいはい
わたしは
リルでいいわ
よろしくねオウル



ではこれから
よろしく頼むぞ
俺の事は
オウルと呼べ



……で

さっきから
気になって
ただけど
……これ何

これが
そうだな
「ダンジョンコア」
とでも呼ぼうか
これからの
ダンジョン作りの
核となるものだ



リル

魔力とは何か
わかるか？

馬鹿に
しないでよ

わたし
これでも
悪魔よ？

魔力は全ての
「魔」に関わる
ものの根源

魔法も 魔物も……
そして 勿論
わたし達 悪魔も
それを源にしてる

「創造主」が作り上げた
この世界を
僅かでも捻じ曲げ
汚し作り変えるもの

それが
「魔」であり

魔力であり
悪魔ってわけよ

では

これは
知っているか

魔力と言うのは
土や大気 水生き物……
ありとあらゆるものに
内在している

しかし

その大部分は
地中に存在する

地中の魔力は
一つのところに
留まっているわけではなく
道や河のように流れている

この魔力の道を
龍脈という

…でそれとこれと
何の関係があるわけ

今いる場所は
その龍脈の真只中だ
このダンジョンコアは
その龍脈の魔力を
吸い上げることができる

えもしかして
この水…
…魔力とか？

そうだ

嘘でしょお!?

液体状に
なるくらいの
濃度の魔力なんて

並の魔術師じゃ
振り絞っても
一滴二滴が
いいとこじゃない!

こんな量
人間の魔術師が
扱える量を遥かに
越えてるわよ…

それにこんなに
近くにあるのに
全然魔力の
匂いがしないって
どういう事?

こんな量の
魔力が傍にあって
匂いがしないなんて…

…簡単な話だ
この瓶は完全に内部に
魔力を閉じ込められる
ようになってる

全く外に
魔力が出なければ
匂いもする
わけではない

これだけの魔力
人の身に宿せば瞬時に
正気を失うだろうが
必要な分だけ使うなら
問題ない

完全に魔力を
遮断って
…すごい技術ね
そんな事が
本当に可能なの？

ああ
我が70年に及ぶ
研究の集大成だ
ようやく
ここまで漕ぎ着けた

70年て…
あんた
本当は何歳よ…

まあいいわ

大体納得した

こんな濃度の
魔力を無尽蔵に
得られるなら

それこそ
世界を統べる事も
可能かもしれない

…で
ダンジョン作りって
まず何から始めるの？



そうだな！
まずは後ろを
向いて
手をその壁に
ついてくれ

？

……うん。



ん？

ねえ
この体勢って
まずで……

ひあ！



ダンジョンコアは
龍脈から
魔力を汲み取る

溜まっている量も
汲み取る速度も
まだ大した量では
ないが

体力を回復
させる程度の
魔術であれば
無制限で使える
程度ではある

魔力で体力を
補いながらならば
半永久的に
お前とまぐわって
いる事も可能だ



パウ..



このように
お前の身体へ俺の魔力を
精と共に仕込んだ
つまり移動型の
小型ダンジョンコアだな



がそれもこの迷宮内
ダンジョンコアの
すぐ傍でだけの事..

そこでだ



しかし流石悪魔だな
許容量一杯まで
魔力を溜めるのに
一晩かかったぞ
これで当分
大丈夫だろう

ふざけるな
あああ

な何故
怒る

あーもう
この馬鹿
殴りたい！

契約で危害
加えられないから
殴れないけど
すっごい殴りたい！

あああ





というわけで

これから
あの村を
襲撃する



…いい加減
機嫌を直さないか？

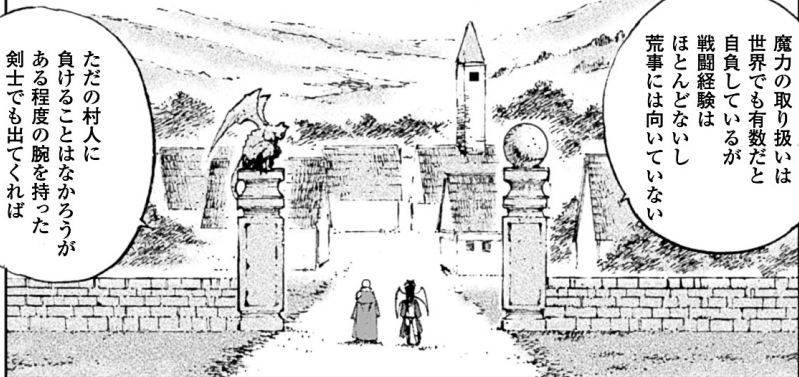
では改めて
確認をしよう

俺はある程度魔術を
修めているが
その研究の大半は
ダンジョンコアに
費やされたものだ

別に機嫌
悪くなんてない

魔力の取り扱いは
世界でも有数だと
自負しているが
戦闘経験は
ほとんどないし
荒事には向いていない

ただの村人に
負けることはなからうが
ある程度の腕を持った
剣士でも出てくれば
少々辛い



つまり
お前だけが
戦力という事だ
頼んだぞ

いいわ

皆殺しに
してやる!



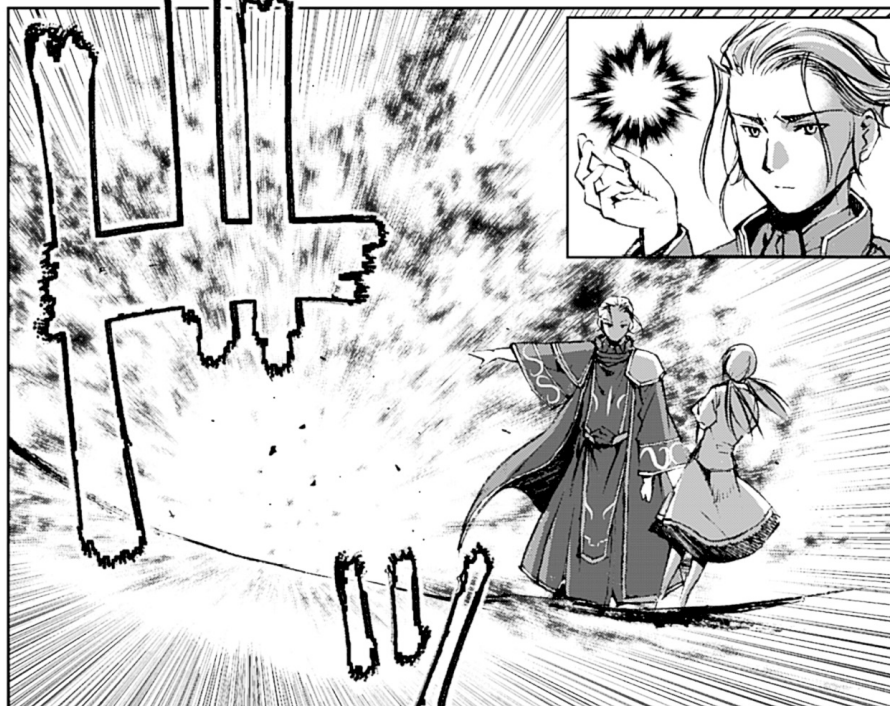
待て

よし
じゃあまず
一人目…

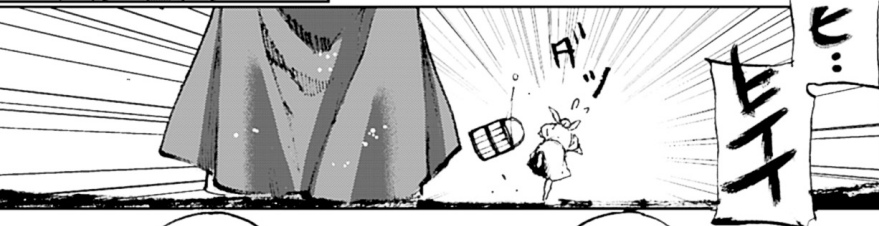


なに
すんのよ!





二度は言わぬ
村全てを灰燼に
帰したくなければ
急げ



ヒッ
ヒッ

めんどくさいな
問答無用で皆殺しに
しちゃえば
いいんじゃないの？



とは言え
逆らうなら
容赦はせん

…そしてこの村は
逆らうだろうな

殺さない方が
使えるからな



お待たせしました





オウル様…なんでも
貢物をご所望との
話ですが…



ああそうだ
こちらの
要求を
呑めばよし

呑まぬならば
この村には
灰になって
もらう事になる

それはそれは
恐ろしい…
…もちろん
納めさせて
いただきます





…鉄の剣で
良ければなッ!



チッ

かわしたか



端からこちらに
従う気などなかった
ということだ

とはいえ
お前のような50にもならん
男が杖をつけて歩いては
せつかくの暗器が
バレバレだろう



リル
俺を守れ

ちよっと!
どういう事よ!?

…アンタを
殺した後でな!

ご忠言痛み入る
次からは気をつけるさ…

く…!

こいつ
強い…!!

わたしじゃ
敵わない
逃げよう!

駄目だ

ハハハ!

じゃあな
悪魔の嬢ちゃん
恨むなら馬鹿な
主人を恨みな

今だ
殺せ



村長!

よし

後は
戦闘の訓練も
積んでない
有象無象だ
任せたぞリル
ガーゴイル

なにかとつなげて
んのかよ...

きゃあああ

うわああああ

うわああああ!

ひひひひ!

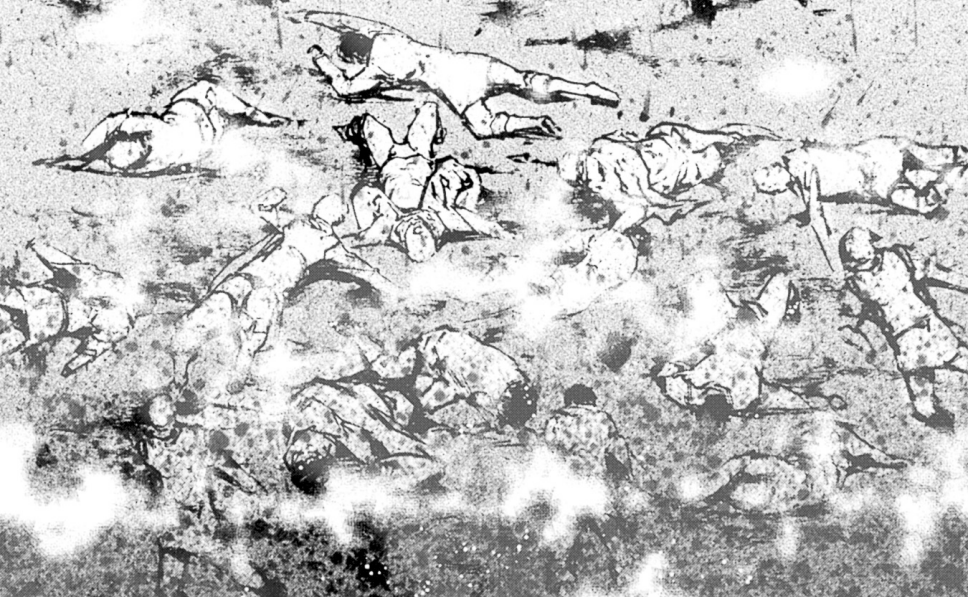
ぎゃああああ！

た助けてえええ

いやあああ

ひいひい
やめてくれええええ





ねえ

いつの間に
ガーゴイル
なんか置いたの？

村の石像を魔力で
操ったのかと
思ったら本物のね
びっくりしたわ

あれを置いたのは
大体30年前だな

は？

この近辺に龍脈が
あることは50年も前には
気づいていたから
足掛かりにする為
行商に化けて
魔除けの像として
村に売りつけた

「なんと精巧な
ガーゴイル像なんだ！」
と喜んで買っていたよ
当然だ
本物のだからな

そのガーゴイルを通じ
村長の実力は知っていた
あいつは元冒険者で
昔はそこそこの知れた
剣士だったそうだ

素直に従うはずも
ないから
殲滅しやすいように
集まってもらったわけだ

なるほどね…

…本当
あんた嫌になるくらい
周到で狡猾ね

褒め言葉と
受け取っておこう

さして
始めるか

この数は少々億劫だ
魔力をもらおうぞ

!



…一応言っておくが
魔力を取り返すなら
手を握るだけでも
いいからな

あーそーですかー

ん…

Step.1 End

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富 1-3-7 ヨドコウビル
TEL.03-3555-3431(販売) / FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。

本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。

また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>



闘 **ら** **ヒロイ** **満** **載** **が** **!!!!**

バトルあり笑いあり
 お色気ありで360度
 死角なしで全包围中!!

閲覧 **無料**
ALL FREE
 登録 **不要**
REGISTER FREE

新作書き下ろしコミック、**ゾクゾク更新中!!!!**

**PCでスマホで
 無料で読み放題**



スマホ版も公開中です!!

今すぐ公式サイトにアクセス!



<http://www.comic-valkyrie.com/>
Windows・Macを初めとするPCブラウザおよびiPhone・Android端末等でご覧いただけます。